

グローバル人材育成プログラム に参加して

西 真樹子
Makiko NISHI
数理情報学科 3年

1. はじめに

私は2015年8月13日から8月31日までグローバル人材育成プログラムに参加しました。このプログラムでアメリカのカリフォルニア州での2週間の企業実習と16日間のホームステイを体験しました。

2. 志望理由

今回このプログラムに参加しようと思った理由は4つあります。一つ目は色々な経験を積むことで、新しいことにも挑戦できる自信をつけたかったからです。海外でのインターンシップに参加することで家族と離れ自立した生活を送ることが出来ます。また言葉が通じにくい慣れない環境で生活することはいい経験になると思いました。二つ目は将来教師を目指しているからです。生徒に良いアドバイスをするためには、様々な知識や経験、広い視野が必要です。世界を知っている人たちとコミュニケーションを取ることで、これらを学ぶことが出来ると考えました。三つ目は仕事をする上で、大事なことは何かを知りたかったからです。四つ目は試験で測れる英語力ではなく、実際に使える英語のリスニング力やスピーキング力のレベルを知りたかったからです。

3. 企業実習

3.1 実習先企業について

私が実習させて頂いたのは『Systema America Inc.』です。この会社は日本にある株式会社 Systema のグループ会社で、2013年にアメリカでの拠点として設立されました。ここでは、携帯電話の新品の検証と評価を目的とした、様々な試験を行っています。

3.2 実習内容

実際に行った実習は2つの携帯電話を使い様々な条件で電話をかける電話機能の確認や、プログラム開発グループから提供していただいたデータをもとに試験書を作成することでした。また Bluetooth に関する試験として Bluetooth の圏外に移動した後、圏内に戻ってくると再接続できるかの確認や、通常の動作をランダムに行いながらバグを探す強化試験をメールアプリで行ったりしました。その他様々な機能についても試験させて頂き、試験で使うソフトウェアの使い方なども教えていただきました。

3.3 実習から学んだこと

今回の研修から学んだことはたくさんあります。まず、「仕事とは」「働くとは」どういうものか少し分かりました。仕事内容は新しいソフトウェアの使い方を教えてもらったり、知らなかったり使ってなかった便利な機能を教えてもらったり、面白いと思うこともたくさんありました。しかし一人で電話を連続200回かける、あるいはただひたすらワードからエクセルにコピーするような同じ作業の繰り返しもあり、地味で黙々とすると飽きてきて眠くなるような内容もありました。つまり働くということは、自分のやりたいことだけをやればいいわけではなく、課題があり、期限もあるので、決して面白いことだけではなく、楽ではないことを体感しました。実習を行う前は不安と緊張ばかりでしたが、インターンシップが始まってみると毎日行くのが楽しくて、この2週間「行きたくない」と思うことが一度もありませんでした。それは職場の皆さんのおかげであると分かりました。お昼ご飯を誘ってくれたり、色々話しかけてくれて私が早く慣れるように手助けしてくれたり、何気なく業務のフォローしてくれたり、質問すると手を止めて分かりやすく教えてくれたり。このように職場の皆さんの優しさと思いやりのおかげで楽しくインターンシップを行えました。働くうえで大事なのは、そういうお互いを尊敬し、思いやる気持ちだと学びました。次に、分から

ないことはどんな小さいことでも必ず聞くことが大切なことも学びました。もし私が自己判断で勝手に「これはバグじゃない」と判断したり、やり方を変えて試験を行い不備を見落とすことがあれば、未完成で商品を出荷する可能性があり、会社の信用問題に関わると気づいたからです。そして物は大切に扱おうと改めて思いました。普段使っている携帯電話一つ作るのにこんなにたくさん試験をしたたくさんの手間の上に出来上がっていることがよく分かりました。電話を手動で連続で200回かけて、しっかりと声が聞こえるか確認しているのなんて予想していませんでした。本当に色々試験をして、より品質を高めるために試行錯誤を繰り返しながら商品が完成することを実感しました。この経験を忘れずに、物は大事に使うべきと伝えていきたいと思えます。また、複数の言語が扱えると、できる仕事の幅が広がることを実感しました。Systema America Inc. の皆さんは日本語も英語も流暢に使える人ばかりでした。加えてスペイン語やフランス語など多数の言語を扱える方は、英語以外の試験も行っており、他の人よりも行える試験がたくさんありました。このことから語学力があれば出来る仕事が増えることが分かり、自分の可能性を広げられることが分かりました。

4. ホームステイについて

今回ホストファミリーになって頂いたのは4人家族で、中国からの留学生が一人いる Park 一家です。私はホームステイを一人するのは初めてで、ホストファミリーの方と会う前は凄く緊張をしていました。しかし、会ってみると温かく迎えてくれ、子どもたちも懐いてくれました。朝食は一番早かったので自分で準備しましたが、冷蔵庫にパンケーキやベ

ーグル、ご飯を用意してくれていたのが困ることはありませんでした。夕食は私の帰宅時間に合わせて手作り料理を作ってくれました。休日にはお友達と一緒にホームパーティをしてくれたり、スタンフォード大学やショッピングモール、海に連れて行ってくれたりしました。また私のつたない英語でも一生懸命理解してくれて、日本のことや仕事内容なども聞いてくれ、過ごしやすい環境を作ってくださいました。本当に優しくしていただき、ホームステイをしてよかったなと思いました。

5. まとめ

このプログラムを通して、私が一番伝えたいのは人の優しさの有難さです。ホストファミリーやホスト企業の方はもちろん、会社に行くのに利用していたバスの中で出会った人も本当に親切にして頂きました。インターンシップの初日が初めてのバスの利用で、降りるところも、次のバスの乗り換え場所も分かりませんでした。またバスも時間通りに来なくて、乗り遅れたのではないかと不安に思いました。しかし、バス停に同じ利用区間の人があり、その人が待ち時間に色々話しかけてくれて、次のバス停まで案内してくれて迷うことなく時間にも間に合うことが出来ました。また一度バスの遅延で2本目のバスに乗り遅れて困った時も、近くの人が調べてくれてどのバスに乗ったらいいのか教えてくれました。お店でもレジの順番を譲ってくれた人もおり、本当にたくさんの人の優しさのおかげで、このプログラムを楽しく終えることが出来ました。もし皆さんの親切心が無ければ、どこかで嫌な思いをして、参加したことを後悔することがあったと思います。この経験を忘れず、どんなときも他人を思いやる心を忘れないでいたいと思います。